

第9回国民経済計算体系的整備部会 議事概要

1 日 時 平成29年11月16日（木）9:26～10:32

2 場 所 総務省第二庁舎 6階 特別会議室

3 出席者

【委員】

宮川 努（部会長）、中村 洋一（部会長代理）、川崎 茂、北村 行伸、西郷 浩、野呂 順一

【審議協力者】

総務省統計局、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、日本銀行、長野県

【事務局】

（総務省）

政策統括官（統計基準担当）室：阪本統計企画管理官、澤村統計審査官

統計委員会担当室：山澤室長、永島次長、上田次長、吉野政策企画調査官

（内閣府）

経済社会総合研究所：長谷川総括政策研究官、二村国民経済計算部長、鈴木企画調査課長

4 議 事

（1）公的統計の整備に関する基本的な計画の変更に係る答申（案）

（国民経済計算体系的整備部会担当分）

（2）その他

5 議事概要

（1）公的統計の整備に関する基本的な計画の変更に係る答申（案）（国民経済計算体系的整備部会担当分）

事務局から資料1「公的統計の整備に関する基本的な計画の変更に係る答申（案）」について説明された後、質疑応答が行われた。

当該答申案で概ね適当とされたが、審議を踏まえて表現を修正することとなった。修正案は部会長一任とされ、具体的な表現振りは部会長と事務局で整理することとした。

主な発言は以下のとおり。

(「ア より正確な景気判断に資する基礎統計改善及び国民経済計算の加工・推計手法の改善等」について)

- ・ (イ) 「法人企業統計について、QEの1次速報に利用可能となるような早期化の可能性を、関係府省が一体となって検討する」という箇所について、統計改革の基本方針では「産業界と連携しつつ」という表現があったが、削除されているのは何故か。

→特段の意図はない。文意を明確にするため修文する。

(「イ 生産面を中心に見直した国民経済計算への整備」及び「ウ 国際比較可能性の向上」について)

- ・ イ (イ) は、ビジネスサーベイと中間年国民経済計算との関係を示しているが、「本節 (2) において後述」という表現だけでよいか、タイトルを入れるべきか、事務局で検討してほしい。

- ・ 「ビジネスサーベイ」を「経済構造実態調査」に書き換える予定はあるか。

→ビジネスサーベイは、経済構造実態調査と、同調査と同時一体的に実施する工業統計調査等を含めた枠組みという位置づけである。一方で、経済構造実態調査は、サービス産業動向調査と特定サービス産業実態調査、年次化された商業統計調査を統合して実施するもの。ビジネスサーベイと経済構造実態調査はイコールではないので書き分けている。

→経済統計ワーキンググループ担当部分と統合する際には、ビジネスサーベイと経済構造実態調査との違いがわかりやすいように表現してほしい。ビジネスサーベイが調査を示すのか、枠組みを示すのかわかりにくいかもしれないので表現は事務局と相談したい。

- ・ イ (ア) で「シームレス」とカギ括弧がついているが、他の資料にはカギ括弧がついていない。ここで、カギ括弧で表現しているのはなぜか。

→シームレスという言葉が一般的には広い意味を持つが、基本計画の中では限られた意味で使用している。3ページで初めてこの言葉が出てくるので、「可能な限り同様な概念に基づく」の後にカギ括弧付きで続けることで意味合いを限定し、以降も同様の意味で使用することを表現した。

- ・ イ (ア) S U T体系への移行は平成42年度までの長期にわたるプロジェクトであるが、その間、S N Aの体系の見直しがあるかもしれない。外側で枠組みの見直しがあったときに、どのように整合性をとるのか。

→2008 S N Aが2008年及び2009年に国連で採択されたが、その後の展開としては、次の変更の方向性はほとんど見えていない。そのような不確実な状況では、まだ言及する必要がないと考えている。方向性が見えてきたときには、整合性について検討しなければならない。

→2008 S N Aに準拠すること、国際的な基準改定・変更に際しては積極的に議論に参加することは、ウで表現している。

→平成42年度と、基本計画外の時期のことを目標として記載しており、初めて読む方にはわかりにくい。注記や関連資料を示す形で、それほどの大変なプロジェクトであることを表現できればよりよいのではないか。

・ウ（イ）国際的な枠組みに参加することは非常に重要だが、具体的に人を派遣する等の計画はあるのか。

→今後、国際機関の場で、できるだけプレゼン等しながら日本側の参画を進めていきたい。

・ウ（ア）「娯楽作品」とあるが、SNAでは「娯楽・文学・芸術作品の原本」と、より広い意味を持っているのではないか。

→表現を再検討する。

（「別表 今後5年間に講ずる具体的施策」のうち、課題I SUT・産業連関表の基本構成の考え方に係る施策について）

・9ページ2つ目のP。中間年・年次SUTという表現は、中間年SUTと年次SUTという別々のものがあるように読めるので不適切ではないか。

→基準年SUTに対しての中間年SUTを意味したもの。表現を検討する。

→中間年とは基準年と基準年の間の遡及年を意味し、年次とは基準年からの延長年を意味する。中間年だけだと遡及期間だけを意味するように読めることを懸念していた。

・9ページ2つ目のP。「できる限りシームレスなものとなるよう」という表現は、本文に合わせて「可能な限り同様な概念に基づくシームレスな設計となるよう」と修正すべきではないか。

9ページ3つ目のP。「その際、調査技術の工夫、報告者負担の抑制、限られた統計リソースの適切な配分にも十分配意する。」という表現は、実際は基礎統計の整備状況を配慮するということかと思われるので、それを明確にするために「その際、調査技術の工夫、報告者負担の抑制、限られた統計リソースの適切な配分など基礎統計の整備状況を十分配意する」と修正すべきではないか。

→9ページ2つ目のPについての指摘には、修文について特段異論はない。

→9ページ3つ目のPについて。例えば、

「現状では投入調査で聴取することが難しいことも、調査票を工夫すれば聴取できるかもしれない」、「報告者に負担がかかるので、あまりに細かいことは聴取できないかもしれない」、「客観的ルールに基づいて考えると望ましいことも、調査実施府省のリソースの制約を考えると実際には難しいことがあるかもしれない」、という議論があり、客観的ルールを設定して検討する際にはこれらの論点に配慮が必要だとして、調査技術の工夫、報告者負担の抑制、限られた統計リソースの適切な配分の3点に配慮することを記載したもの。

基礎統計の整備状況に配慮することは重要だが、これら3点が基礎統計の整備状

況に直結するという趣旨ではなく、産業連関表を作成する過程において配慮するということ。

- 基礎統計の限界を踏まえながら推計手法の見直しや改善を含めて考えるという趣旨で記載している。今後一体的に加工統計と基礎統計を考えるという意味で重要であるし、基本計画の肝ではないか。基礎統計の整備状況だけに言及するのはどうか。
- 客観的ルールを機械的に決めるのではなく、調査技術の工夫、報告者負担の抑制、限られた統計リソースの適切な配分に配慮するということであった。表現ぶりは事務局と相談する。

基礎統計の整備状況については、報告書全体で言及することではないか。統計改革推進会議でも全体的に記載しているし、統計委員会でも共通課題のワーキンググループの中で議論している。国民経済計算の精度向上のために基礎統計と関係のある部分ということで議論してきたので、別のところで記載した方がよい。

- ルールについては、統計としてどうあるべきかという議論があってもよいと思う。その上で、技術的な制約でこれくらいの部門しか調べられないとか、これくらいの集計でよいといった議論になるのだと思う。
- 御指摘の通りだと思う。今後一年間で実施する中で、理想型や国際比較可能性、さはさりながら、という議論が出てくると思う。そのような点はきちんと議論して、今後のために計画に書き込むことも含めて考えていきたい。
- ・ 9 ページ 1 つ目の P。文章が読みにくくて頭に入りにくい。句読点や文言を整理して、誤解が起きないように、分かりやすい表現にして欲しい。
- 御指摘の通り、文章が長いと思う。表現は事務局と相談したい。
- ・ I 関連の P 全般。どういう順番で何ができていくかというステップがわかりにくい。まず、5年に1回の基準年の産業連関表や投入調査を設計し、並行して毎年のビジネスサーベイをシームレスになるように設計するのかと思うが、結局、30年度ではどこまで決まるのか。生産物分類やアクティビティ、ビジネスサーベイの枠組みはいつ固まるのか。一つ一つの事項についてはわかるが、あまりに色々なことが記載してあって相互の関連などが読みにくい。
- 統計改革推進会議のスケジュール表をイメージしているが、スケジュール表の掲載がないのでわかりにくいところがあるかもしれない。表現の仕方を検討する。
- 31年から枠組み作り着手し、まずは経済構造実態調査を開始する。33年の基準年が実行ベースのスタートラインで、経済センサスー活動調査や付帯する投入調査でどこまで把握できるかといった基準年の枠組み、基本的な構想があって、34年以降の経済構造実態調査が決まり、それが中間年の年次 S U T にも連動してくる。基準年・中間年の S U T の枠組みが決まり、それに合わせて調査関係も必要な見直しを行うイメージだが、大枠という表現だけではわかりにくいかもしれない。
- 統計改革推進会議のスケジュール表には、ビジネスサーベイについて記載がなかったと思う。それを含めて全体としてどのようなスケジュール感になるか、言葉だけ

では表現が難しいところを、どのような形で見える化できるか最終的に工夫が必要
と思う。事務局で検討してほしい。

以上

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>